



## 国際キワニス年次総会ナッシュビル大会 2009.6.25～27

6月25日から27日まで米国テネシー州ナッシュビルで2009年の第94回国際年次総会が開催されました。ナッシュビルはカントリーウエスタンとパーボンのジャックダニエルで有名な土地で、外に出るとカントリーウエスタンの音楽が鳴り響いている楽しい町です。今回は5500人の参加者が世界から集まり、日本地区からは9名が参加しました。日本は、Distinguished Districtとして前年度の表彰も受け、参加者は少なくとも存在感はあったと思います。YCPOのコーナーではキワニスドールの展示、配布に日本地区も協力し、キワニスドールシンポジウムのDVDを放映し、注目を集めました。

全体のスケジュールとしては25日に開会式、26日ビジネスセッションで選挙、規約の改正等があり、最後に閉会式がありました。その間にワークショップが開かれ、各時間に10ずつほど多彩に開催されていました。内容的には次のキワニスの成長をどうもって行くかという大きなテーマで、今までの考え方

とは大きく変えた発想で成長させよう、現在のキワニスクラブをキワニスクラシックと言い、次のキワニスクラブをキワニスネクストと言って、いくつかの新しい発想が出され議論されました。その一つはクラブサテライトという考え方で、今までのキワニスのいろいろな規約、縛り、基準を越えた新しい発想で、サテライトクラブをつくらう、その運営、費用はそのクラブに任せるといったものです。その他法人会員、企業内クラブ等の新しいクラブ新設のアイデアが提唱されました。

全体的に感じたことは、キワニスクラブの存在価値は、社会に出て奉仕活動のモデルを示す、奉仕活動のリーダーシップを育成し、社会に貢献していくことにあるということが強調されていることで、高校、大学、一般の人も含めて奉仕活動のリーダーを育てていくという役割を共通の目的として新しいクラブを形成していこうということが語り合われました。最後に、国際キワニスとして全世界で共通で行う奉仕活動

の新しいアイデアを世界的に募集するという大きな提案の発表がありました。

ポール・バラゾーロ新国際会長はキークラブからの筋金入りのキワニアンです。高校の後輩という若い人が応援演説をし、若々しい感じを受けました。2010年の第95回大会はラスベガスで6月24日から26日に開催されます。湾岸戦争で有名なコリン・パウエルがキーノートスピーカーで来るそうです。そのときに世界的な奉仕活動のプロジェクトが発表されます。

(会長 北里)





## 第43回キワニス社会公益賞贈呈式

2009. 7. 17

### 第43回キワニス社会公益賞の選考にあたって

このたび第43回キワニス社会公益賞の受賞となったNPO「えじそんくらぶ」の選考の経緯をご報告いたします。前委員長の小山田氏は2年間に渡って若さと行動力でお一人で立派な委員長を務められました。週末の例会に参加できる他は、現業で東京を離れている多忙な現状としては、到底役員などお引き受けできる分際ではなかったのですが、幸い、高橋淳三氏というまたとない実務能力を発揮していただいた副委員長の絶大なパートナーのご協力のおかげで、キワニスの活動として、よい選考ができたと思っております。

今年度の受賞対象はキワニスのボランティア活動のターゲットである子供に対する支援を中心に、かつて社会公益委員長を勤められた先輩の皆様方のご指導で、まず、東京都のボランティアセンターにでむいて、選考先の候補を20件ほどあげていただき、かつ東京都庁の福祉課をたずねて、10件ほどのご推薦をいただき、またキワニスの会員からのご推薦先もあわせて、候補先を絞りました。最後に、委員会の意向で5つの候補先に絞ったところで、実際の活動を検分するために、委員長と副委員長で候補先を訪ねた様子を委員会に報告し、最終的に今回の受賞



先を決定し、役員会へご報告して承認されました。

NPO「えじそんくらぶ」の主宰者である高山恵子さんは薬剤師でもあり、その後、身近な問題意識から、アメリカの大学で児童教育を学び、カウンセリング修士となり、帰国後は児童養育施設・養護学校での経歴を経て、現在はNPO法人を主宰し、ADHD（注意欠損多動障害）に対するカウンセリングを中心に、教育関係者、保護者、PTAを対象としたセミナー講師として全国的に支部を持ちながら活躍しています。NPOの命名の由来はあの発明王のエジソンもADHDではなかったかという扱いにくいユニークな子供たちへのサポートをエネルギーに展開しています。

(社会公益委員長 山口)

## キワニス日本地区 年次総会福岡大会 2009. 9. 11～13

第33回国際キワニス、日本地区年次総会は、2009年9月11日午後、福岡のホテル日航で開催され、全国から約500名のキワニスクラブ会員が集結しました。東京クラブからの参加は会員25名家族

5名の計30名でした。総会では、大堀ガバナーが「子どもたちのためのキワニスクラブ活動」を明確に述べられ、次期、日本地区初の女性ガバナーに就任される小池和子さんが、「3つのE-Enjoy Kiwanis(キワニスを楽しもう)、Encourage Children(子どもたちを元気にしよう)、Expand Kiwanis(キワニスを広げよう)」の方針を発表されました。地球の明日を担う、子どもたちを元気づけ、健康に成長させることは、私たちにとって、「待ったなし」の課題であり、「いますぐ行動を起こそう-Right Now」は、本当に大切なことだとあらためて、出席者全員が痛感したと思います。

11日の夜は福岡クラブによる素晴らしいパーティで、日本舞踊や、山鹿灯籠のアトラクションを楽しみ、福岡の地元の食材を使ったおいしいお食事を堪能しました。翌日の12日は、ゴルフ、柳川への日帰り旅行、熊本・雲仙への一泊旅行に参加。





あいにくの雨のため、ゴルフは午前中で中断だったようですが、私が参加した柳川への日帰り旅行は、ハイライトの柳川の川くだりのときは、奇跡的に雨がやみ、静かな柳川の町を優雅に船でめぐることが出来ました。これも、東京キワニスクラブの某晴れ男のおかげと感謝しております。来年の総会は京都です。たくさんの仲間と一緒したいと思います。

(副会長 堀井)



## オレンジリボンたすきリレー

2009. 11. 8



### オレンジリボンリレーの応援とボランティア活動への参加

児童虐待防止推進月間である2009年11月8日(日)、今年もオレンジリボンリレーが実施され、昨年に引き続き当クラブもリレー走者の応援ならびにキャンペーン支援活動に参加しました。

場所はリレーの都心コース第2区繰引き継ぎ箇所でありイベント開催場所でもある東京タワーの玄関前で、残念ながら当クラブ会員のリレー走者はおりませんでした。会員に関係する企業の方4名がリレーに参加されました。当日ボランティア活動に参加した会員7名とサポートいただいた3名の方全員で、リレー走者のみなさんへ熱い応援を行うとともに、約1時間にわたり、子ども虐待防止にかかわるチラシの配布を行いました。

主催は、子どもの虹情報研修センター、日本こども家庭総合研究所、NPO法人虹のリボン事務局による「子ども虐待防止オレンジリボンたすきリレー実行委員会」で、オレンジリボンに込められた「子どもたちの明るい未来と児童虐待防止」の願を多くの方々に知っていただくために毎年実施されています。

なお、当クラブは昨年「協賛」団体でしたが、従来の支援活動の実績も評価され、今回は横浜クラブとともに「後援」としての位置づけになっています。

(ボランティア活動委員長 松本)

## サマーパーティ 2009. 7. 27

2009年7月27日月曜日、銀座5丁目の角の銀座スターホールで、東京キワニスクラブのサマーパーティがにぎやかに開催されました。この催しは従来「ビアパーティ」として親しまれていましたが、今年から、ビール愛好家以外にも多数参加していただきたいという願いをこめて、名称を改めたものです。

パーティの内容も一緒に衣替えし、今年は、キワニスクラブ会員の多くの方がおなじみのスウィングジャズの名曲を、セミプロのトリオが演奏し、パーティに花を添えてくれました。名称変更のおかげか、ジャズの魅力のおかげか、パーティの参加者数は例

年を上回る63人でした。1950年代、60年代に青春時代を謳歌したキワニスクラブ会員のなかにはジャズファンが多いことを、今回改めて実感しました。いくつかの曲で、皆さん口ずさんでいらっしやいましたが、演奏の最後には興に乗った会員がマイクを握り、ジャズボーカルを披露し、満場の拍手を浴びていました。あいにく、お天気は快晴とはいかなかったものの、会員、家族、友人がビール、ワインを楽しみ、懐かしいジャズの名曲に酔った一夜でした。

(副会長 堀井)



# 東京キワニスクラブ・案内リーフレット作成



東京キワニスクラブの奉仕活動(社会貢献活動)を中心にその重点活動やクラブの特色、歴史、例会、研修会(国際懇話会を含む)、懇親・交流、国際キワニスとの連携などを写真入りで説明しあわせてキワニスドールを紹介するとともにキワニスクラブの活動への参加を呼びかけるものとして作成しました。

取りあえず1,000部作成しましたので、さまざまな活動の場面での利用や新会員の勧誘にも活用され会員拡大に寄与できればと考えます。

会員の皆さんの有効な活用をお願いします。

(広報委員長 古屋)



# 日本チャイルドライフ研究会 ドール展示 (国立成育医療センター)

2009. 11. 7

## チャイルドライフ研究会での キワニスドール展示

2009年11月7日(土)国立成育医療センター(世田谷区)で開催されたチャイルドライフ研究会のカンファレンスに合わせ、キワニスドールの展示と紹介を実施いたしました。

キワニスドールを活用していただいている同センター様からお誘いをいただき、研究会で東京クラブとしては初めてブースを利用した広報活動を行ったものです。

“こどもの最善をめざして、私たちにできること”をテーマに、小児看護の現場に直接携わるみなさんの情報共有の場、考える場として第9回目となる会議とのことですが、ブースに立ち寄っていただいたみなさん、さすがにドールについてはご存じの方が多く、また、ドールシンポジウムにもご関心をお持ちいただくなど、ドール活用の環を拡げる活動の当事者とし



て私たちも大変嬉しくまた心強く感じた次第です。

会議には約150名が参加されたとのことですが、当日お渡し出来たドールは145個に上りました。さらに、後日にお送りするお約束をしました県立千葉子ども病院へも、12月18日に30個を直接お届けし、貴重な意見交換もさせていただいて参りました。

これからの医療現場におけるプレパレーションの有効なツールとして、キワニスドールがますます活用されるよう、地道な努力を重ねてまいります。

(ボランティア活動委員長 松本)



## キワニスドールをつくる会 (TEPCO 銀座館)

2009. 11. 21 / 12. 12



### 皆でドールを沢山作りました

Kファミリー委員会とボランティア活動委員会は共同してキワニスドールの製作会を昨年11月21日と12月12日に2回続けて開催しました。2回とも銀座のTEPCO銀座館を会場に開催しましたが多くの学生団体とキワニス会員やその関係者の参加があり大盛会でした。11月21日は総勢61名のうち26名がキワニス会員と関係者で、学校関係(7団体)からは35名が参加してわずか2時間足らずの間に脇とじが出来なかった15個を含めて総数91個のドールを作ることが出来ました。

12月12日は明治学院大学のJUNKOアソシエーションの学生を中心に開催しましたが、総参加者39名のうちキワニス会員とその関係者が24名にのぼり学生の参加者を上回る盛況で総数52個(11個は未

完)が出来上がりました。

学生や生徒さんたちもドール作成の経験者が多くなり、また会員や関係の方々もドールづくりの腕前が上がって大変なごやかに楽しく作ることが出来ました。

キワニスドールも次第に知名度が上がって需要が供給を上回る状態になってきましたので会員やその関係者によるドールづくりへの積極的な参加は大変喜ばしいことです。

今年は1月23日(土)の午前中いっぱい田園調布学園での「つくる会」が予定されており、また4月17日には昨年に引き続き第2回目の「キワニスドールシンポジウム」が東芝本社会議室で開かれます。ますます多くの会員やご家族や関係の方々の参加を期待しております。

(Kファミリー委員長 守屋)





## キワニスドール寄贈（東京ベイ浦安市川医療センター）

2009.12.3

### キワニスドールを携えご訪問

生憎と雨になってしまった12月3日（木）の午前、浦安市にある東京ベイ・浦安市川医療センターへお邪魔しました。

看護部参与の風間様にお会いして、50個のキワニスドールを直接お渡しするのが目的です。

風間様は最近まで仙台市の医療機関に勤務されていて、こちらに移られたそうですが、以前から小児看護のプレパレーションの必要性を強く感じておられ、今回を機に新勤務先である現病院で、先頭に立ってその充実を進めて行かれようとお考えになって居られるとのこと。まず具体的に出来ることから始めようと、東京キワニスクラブへご連絡を下さったそうです。

プレパレーションに関する資料なども含め着々と準備されておられて、これからの計画についてのお

話も伺いました。

たまたま、当医療センターは建て替え予定になっており、3年後の新施設になったタイミングで小児医療におけるプレパレーションの充実を実現したいとのお考えで、それまでに、様々なツールやシステムについて試行しつつ、しっかりとした仕組みを築いて行きたいとのこと。お話の中で、今後率直な情報交換をさせていただくお約束も出来ました。大切に参りたいと思います。

これからも医療現場に携わるみなさんのお話を直接お伺いしながら、ドールをどのようにご提供すれば喜んでいただけるか、私たちの目標を明確にしてドール製作に励みたいもの、と感じながら帰途につきました。

（ボランティア活動委員長 松本）

## シニアアドバイザーの依頼

2009.10.2

ホームページ・シニアアドバイザー

栗山 勤会員

キワニスドール・シニアアドバイザー

星 利樹会員

10月2日の定例役員会において栗山勤会員がホームページ・シニアアドバイザー、星利樹会員がキワニスドール・シニアアドバイザーに依頼されました。

栗山会員はクラブの内外への広報に重要な役割のある東京キワニスクラブのホームページの立ち上げを自らやっていたいていますが、今後もそのフォロー、内容の更新・修正にもその知見と経験・ノウハウを駆使していただけるものと思います。

星会員はキワニスドールづくりの達人であり、さまざまなドールをつくる会でも講師役を務めていただいております。また、ドール作成の全工程を熟知されておられます。ドール作成について会員への指導はもとより、学生のサークルなどさまざまな場面での指導と普及に引き続きご尽力いただけるものと思います。

（広報委員長 古屋）

### 今後の予定



### ●「キワニスドールをつくる会のお知らせ」

今後のドールをつくる会の予定は、次の通りです。

日時：2010年1月23日（土） 9:55-12:00

場所：田園調布学園

東急東横線・目黒線「田園調布」駅より  
徒歩8分

正面玄関（環八側）内に9時55分頃までにお出かけ下さい。

ご家族、ご友人などをお誘いいただき多数のご参加をお願いいたします。

ご参加いただける方は、1月15日までに事務局宛お申し出下さい。

ご希望の方には地図を差し上げます。

（ボランティア活動委員長 松本）

## 「第2回キワニスドール・シンポジウム開催のお知らせ」

昨年4月に開催したキワニスドール・シンポジウムは  
約200名の参加者を得て成功裡に終了しました。  
今年も引き続き、国際キワニスクラブ「キワニス・ワン・デイ」の一環として、  
キワニスドール・シンポジウムを開催することが決まりました。  
日時、場所等は以下のとおりです。

日 時 : 2010年4月17日(土) 13:00-15:30

場 所 : 株式会社東芝39階会議室

主 催 : (社)東京キワニスクラブ、横浜キワニスクラブ、埼玉キワニスクラブ

支援企業 : 株式会社東芝 BT ジャパン株式会社

参加費 : 無料

お申込み : e-mail [tokyokiwanis@japankiwanis.or.jp](mailto:tokyokiwanis@japankiwanis.or.jp)  
または FAX 03-5256-0080

キワニスドールをつくってくださる方々、使ってください方々が一堂に会して、  
ドールについて熱く語ります。ぜひご参加ください。



昨年の  
キワニスドール・シ  
ンポジウムの  
様子。





## キワニスドールの使い方

キワニスドール(キワニスクラブで製作した人形)は、病院で若い患者さんに、これからどんな治療をしていくのか説明するときなどにも使われます。傷口の縫合や、酸素マスクを使用しなければならないような場合、お子さんは驚き緊張して怯えてしまいがちですが、キワニスドールを使って説明されると、これから受ける治療の内容がよく判って、怖さや不安が軽減されるそうです。

子ども達はキワニスドールに注射をしたり、時にはお医者さん・看護師さんに教えて貰いながら手術の真似をしたりして、キワニスドール相手の「ごっこ」遊びをしています。人形を身代わりにこれから受け

る治療を体験させると、子ども達の恐怖が和らぎ、治療を受け入れやすくなるそうです。

キワニスドールが真っ白でノッペラボウなのは、子ども達が好きな色を塗り、顔や洋服を描いて遊ぶことができるように、という工夫をしているからです。大人でも病院は厭な所です。病気の子ども達にとってはなお更です。治療は苦痛を伴いますし、見知らぬ環境におかれて子ども達は怯えています。

キワニスドールは、痛くて怖い外来での治療や入院生活を少しでも楽しくできたという、特別な玩具なのです。

## キワニスドールの報道とPR活動

日本地区で初めて、東京キワニスクラブでスタートしたキワニスドールは、2003年にNHKラジオで全国放送され、また雑誌では、日本フィランソロピー協会の機関誌や、2004年には診断と治療社の「チャイルドヘルス」12月号、2006年3月に医療関係専門誌「メディカル朝日」2006年3月号にも掲載されました。

2005年3月20日、「キワニスドール」が読売新聞で全国に紹介され、全国の読者から大きな反響がありました。また、2005年8月27日の13:00、キワニスドールが1時間のドキュメンタリー番組として、BS朝日から全国に放映されました。東京キワニスクラブでは、この放映番組を基に20

分間にダイジェストしたPR版(日本語及び英語版VTR及びDVD)を制作して、キワニスドールの普及活動に力を入れています。2009年4月4日にはキワニスドールシンポジウムを東芝本社39F会議室にて250名の参加を得て開催、ドールをつくる喜び、看護師、医師、看護教育の立場からドールの使い方の報告があり、現場の生の声を聞く機会を得ました。このときの様子を約16分のダイジェスト版DVDにして、希望の方に差し上げています。キワニスドールの活動は東京キワニスクラブのホームページでも紹介していますので、ご覧ください。

<http://www.japankiwanis.or.jp/tokyo>

## キワニスクラブとは

キワニスクラブは、“世界の子どもたちのために”を合言葉に奉仕活動を行う民間の世界的な団体です。1990年からは、特に幼い子どもたちのための奉仕活動に力を入れています。名称のキワニスは、デトロイト周辺に住んでいたアメリカ原住民の言葉“Num-Kee-Wan-is”(みんな一緒に集まる)に由来します。

キワニスクラブは、1915年1月21日米国デトロイト市で生まれました。当初はアメリカとカナダで発展していましたが、1963年にはヨーロッパ3都市に広がり、現在世界の約90ヶ国、8,000のクラブ、約60万人の会員が国際キワニスを構成し、その本部は米国インディアナポリスにあります。

日本では、東京キワニスクラブが1964年1月24日、アジア太平洋地域で最初のクラブとして設立され

ました。次いで名古屋、大阪、広島、神戸、仙台、札幌、横浜、高松、福岡、京都、千葉、新宿、和歌山、新潟、泉州、埼玉、西宮、渋谷、福山、熊本、静岡、金沢、松江、鹿児島、芦屋、福島、大分の順に生まれ、現在28のクラブで会員は約1,600名で活動しています。東京キワニスクラブは、1967年2月27日社会奉仕団体として初めて、厚生大臣より社団法人の認可を受けました。

キワニスドールは、メルボルンのナナワディング・キワニスクラブで、1988年に初めて作られました。メルボルンからオーストラリア全域で広がり、さらに1994年に北欧にも伝播しました。日本地区では2001年11月から取り組み始めました。現在では全世界のキワニスクラブでドールを制作して病院などに寄贈するという活動を行っています。

社団法人 東京キワニスクラブ 会長 北里 光司郎 〒101-0047 千代田区内神田2-3-2 米山ビル

Tel: 03-5256-4567 Fax: 03-5256-0080 e-mail: [tokyokiwanis@japankiwanis.or.jp](mailto:tokyokiwanis@japankiwanis.or.jp) URL: <http://www.japankiwanis.or.jp/tokyo>